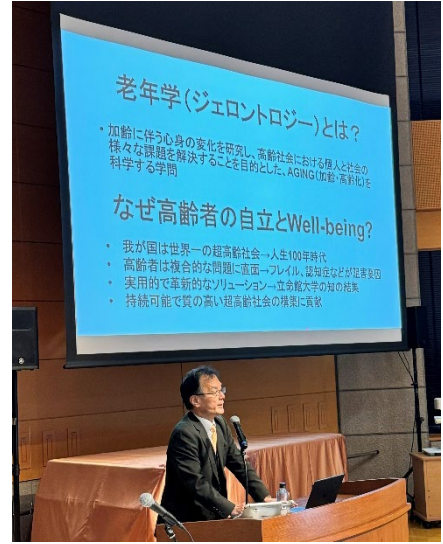


スポーツ健康科学総合研究所主催 シンポジウム
「超高齢社会における高齢者の Well-being 向上への挑戦」
開催報告

スポーツ健康科学総合研究所主催シンポジウムを開催しました。

2024年1月29日(金)立命館大学びわこ・くさつキャンパスにおいて、スポーツ健康科学総合研究所主催シンポジウム「超高齢社会における高齢者の Well-being 向上への挑戦」を開催しました。

開催当日は現地参加 39名、オンライン参加 100名、合計 139名の方々にご参加いただきました。



荒井 秀典先生

基調講演「立命館大学に老年学研究グループを立ち上げる意義」

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 理事長/RARA フェロー/総合科学技術研究機構 客員教授

荒井 秀典先生

講演1 工学的アプローチを用いた高齢者の Well-being 向上のためのイノベティブ研究

理工学部ロボティクス学科 教授/RARA フェロー/スポーツ健康科学総合研究所副所長 岡田 志麻

講演2 エビデンスに基づく認知症共生社会づくり：お笑いでつながる認知症を有する人と若者世代

スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科 教授 清家 理



岡田 志麻



清家 理

講演3 高齢者の Well-being とフレイル、身体活動

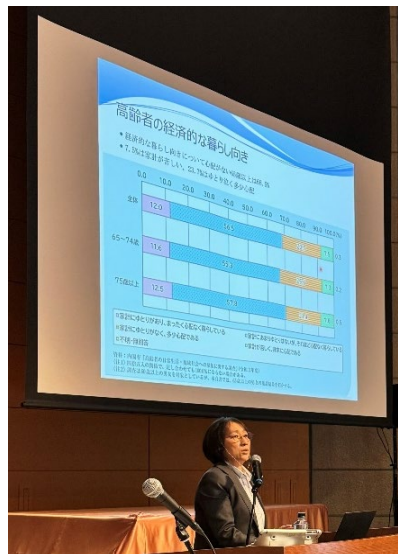
スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科 教授 真田 樹義

講演4 高齢者の地域生活支援

産業社会学部 現代社会学科 教授/研究部 副部長 岡田 まり



真田 樹義



岡田 まり

総合討論

最後に、講演の岡田志麻、清家理、真田樹義、岡田まりが登壇し、基調講演にてお話しいただいた荒井秀典先生がモデレーターを務め、総合討論を行いました。先生方からは専門の研究内容、講演の内容と会場、オンラインの質疑応答を交えながらお話をいただきました。講演内容をさらに深め、かつシンポジウムのタイトルでもある「超高齢社会における高齢者の Well-being 向上への挑戦」に向けた、専門的な分野と現場への還元をふまえたお話もあり、大変活発な討論となりました。



参加者からの感想

「高齢者メインの well-being の知識が無かったので、勉強になった」、「well-being というひとつの目標に向けて他分野の専門家の方々の先駆的な研究活動や知見に触れることができた」「高齢化社会である日本においては、高齢者の well-being はとても大切だと感じました。高齢者や高齢者に携わる人の声も聴ければよかったですと感じました」等、高齢者に焦点をあてた本講演内容は、参加者にとっても身近な話題でありながらもアカデミックな内容だったため、興味関心高く聴講いただけたのではないかと思います。

